

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第11号
2020年 9月23日
編集・文責 吉成正士

「戦争について考える」第4弾

毎回読んでくれてありがとう。いつも字ばかりでめんなさい。読んでどんなことを思っているのか、気になっています。感想があれば、お寄せください。吉

私はみんなの意見を聞いたり、自分で戦争について詳しく考えてみて、とても勉強になったし、そういう考え方もあるんだと思うことができました。

「日本が最初に降参すると言えばこんなことには…」

「戦争があったからこそ学べたことがある…」

「私たちが戦争について伝えていかなければ…」

「こんな当たり前の日常も幸せ…」

「こわいと思うだけじゃいけない…」

「戦争は二度と起こってはならない…」

「戦争で生き残った人やその孫の世代まで差別するのはなぜ…」

と、様々な意見がありました。

私たち戦争を経験していない世代は、本当の戦争の無残さは分からない。でも、分からないなりに調べたり考えたり、他の人の意見を聞いたり、被爆者からお話を聞いたりすることによって、自分なりに戦争について考えることができたらいいんじゃないのかなと思いました。

また、私たちの世代は、戦争を経験した方からお話を聞ける最後の世代だということを知りました。私はその言葉を聞いたとき、とてもつらい気持ちになりました。私たちより後の世代は、戦争を経験した方から聞いたお話を私たちから聞くことになります。なので、どれだけがんばっても後の世代に本当の戦争を伝えることができないのです。

これから私は、できるだけ多くの人と戦争についてお話して、いろんな意見を聞いて、自分の知識として心にとどめておこうと思います。 NK

見方を変えれば、あの戦争を体験した人たちがいたからこそ、75年間、私たちは戦争を体験せずに生きることができたのかもしれない。「あんな戦争はもう二度としてはいけない」という強い思いを持った人たちがいたからこそ、戦争をせずに済んだのかもしれないということです。とすれば、やはりこの75年は重いです。本当にありがたいことです。たくさん命と引き換えに手にした、この世界。そんな先人の思いを無駄にして、未来に手渡すわけにはいきません。私たちの身の回りも、暴力ではなく「対話」で。他国との外交も、戦争ではなく「対話」で。そんな世の中にしていくために、学ぶこと、学んだことを思いっきり表現できる自分になることです。

戦争について考えたことは、戦争は人々を苦しめる。でもその苦しみを分かっていたから、今の平和があるということが分かりました。私はずっと戦争は絶対ダメだと思っていました。ですが、なぜ戦争はダメなんだろうとあまり考えたことがなかったけど、Tさんの作文を聞いて、人々は苦しんだけど、戦争がなければ平和はなかったかもしれないというのを聞いて、そうかもしれないと思いました。

戦争はとても怖いものですが、それを怖いで終わらせるのではなく、戦争について知らない人に教えていくのが大事だと思いました。私たちにできることはそれぐらいしかできないので、今、私たちにできることをしていきたいと思いました。それに、今戦争を知っている人がどんどん少なくなってきているから、どんどん教えていきたいと思いました。

私が一番伝えていきたいのは、今、この日常が普通ではないということです。私は被爆者や戦争に行った人に会ったことがないので、その人の苦しみだったり悲しみなどのことが分からないけど、映像やインタビューを聞いていると、苦しみとかが分かるので、これから戦争があった日などにニュースなどで見たいと思いました。あと、ニュースなどで正確な情報を得て、それを後の人に伝えていきたいと思いました。特に原爆のことでは唯一の被爆国なので、そこは絶対に伝えていきたいと思うし、被爆者だからといって差別を受けたりしたら、今の日本と同じだと思いました。被爆者の人だって放射能や放射線を浴びてしまって、体が上手く動かさなくなったり、「原爆症」や「白血病」になったりなど、被爆者の人たちだってとても苦しんだり、悲しんだりしていたのに、差別などをしたら、その人は命を落としてしまうかもしれません。なので、今のコロナと同じで、差別は本当にダメだと思いました。 ST

あの戦争があったからこそ、今の平和がある。ということは、平和を手にするためには、戦争は必要だということでしょうか。人は失敗から多くのことを学びます。だから、失敗することは、決して悪いことではない。とすれば、戦争もあったほうがいいのでしょうか。

みなさんはどう考えますか。

他の人の発表を聞いたり、自分でいろんなことを調べてみて一つ思ったことは、どうしてアメリカは日本に原爆を投下したかということです。それから発表などを聞いたりして初めて、日本が先にアメリカに爆弾を投下していることに気がつきました。それでもこの国と国の一部の人たちの争いで、多くの人々の夢をなくしたのは本当のことです。このとき、私はあらためて、どうして戦

争というものがあるのか不思議に思いました。お互い傷つけ合って何がよいのか、私には分かりませんでした。でも、戦争があったからこそ、今戦争はダメなことだと言っているのではないかなと思います。

徳島にも昔、爆弾を投下されたことがあり死者も出ました。このいろいろな出来事から、これらの悲劇を絶対に忘れてはならない。また、どんなことがあったのか、いろいろ知っていけるように、この出来事などをどどんつなげていくべきなんだとあらためて思いました。

IH

「戦争が科学技術を発展させる」という人がいます。考えてみてください。人の命、国家の存亡がかかっているわけですから、戦争に使われる道具、つまり兵器というものには、その時代の最新の技術が使われているはずで、その最新の、あらゆる科学技術を搭載した兵器を開発すれば、開発者はその次、何を考えるか。その結果が原爆投下ではないかという人もいます。実際、投下後すぐに、アメリカは広島や長崎に調査団を派遣し、その威力についての報告書を作成しています。

みなさんはノーベル賞は知ってますよね。発明家アルフレッド・ノーベルは、ダイナマイトをはじめとする様々な爆薬を開発・生産し、巨万の富を得ました。その後、ダイナマイトは兵器として戦争に使われ、ノーベルは「死の商人」と言われるようにもなりました。そして巨万の富を手にしたノーベルは、人類の発展に大きな貢献をした人にノーベル賞を贈るようと遺言を残したのです。つまりノーベル賞として贈られる賞金は、多くの爆薬や兵器で得たお金がもとになっている一方で、人類の未来や平和に貢献した人を称えてもいるわけです。

ここで考えておきたいのは、私たちは何のために学ぶのか、ということです。学んだことが破壊や破滅に向かうような学びであっていいのか、ということです。みなさんは日々、教科の勉強をしています。何のためにしていますか？それは受験のためかもしれません。でももっと言えば、私たち人類が幸せに生き延びるために学んでいるとも言えるのです。私たちは学び、英知を結集させ、他の生物も守りつつ、この地球で生きていく道を考えないといけません。もちろん、同じ人間同士で差別なんかしている場合ではありませんし、戦争なんかしてる場合でもありません。そう思えるようになるために、人権学習をしているのです。心のない科学は、人類を滅ぼします。そうならないように、私たちは教科の勉強と同時に、心も間違えないように、しっかり鍛える必要があるのです。

私は、「戦争について考える」という学習をして、原爆が落とされたことを深く学びました。原爆については小学生のときに九州へ旅行に行ったとき、ちょうど8月9日に長崎にいたので、急にサイレンが鳴ったと思っ
びっくりしたときに、お母さんが「これは空襲警報のサイレンだよ」と教えてくれて、このときに落とされたのだと思うと、グッと身近に感じるようになりました。原爆の被害にもし誰かが遭ってしまったら、あとは苦しい思いを

するだけだと思います。かろうじて生きていても、放射能を浴びているので、病気にかかりやすいのに、いろんな人に遠ざけられる差別が起こってしまいます。私は負のダメージしかないのに、核兵器はいらないと思います。

今、いろんな人々が「戦争反対！」という強い思いを持っています。平和な世界では、「人は殺さない」、でも戦争の世界では、「殺していいよ。むしろ殺して」というような狂った世界になっていると思います。でも、思うだけなら誰でもできます。だから、「戦争はいけない」というような呼びかけをしている(行動にうつしている)人がいるんだと思います。しかし、戦争の中の核兵器の原爆、この原爆のおかげで、「戦争はいけない」や、「非核三原則を守ろう！」という声が外国にも伝わり、いろんな人々が平和を祈っていると思います。このヒロシマとナガサキの原爆がなければ、ずっと核兵器をあらゆるところに落としたりしていたのかもしれないので、そう想像すれば、顔面蒼白になります。この原爆の恐ろしさを、100年後にも伝えていけるように頑張っていこうと思いました。

YM

やはり、そのとき、その場に行ってみることで、グッと身近になります。

「少年兵」って知っていますか？世界の紛争地の中には、みなさんや小学生くらいの子どもを連れ去り、兵士として教育し、実際に戦地に送り出していることもあるようです。もちろん、学校になんか行けませんから、私たちが受けているような教育は受けられません。でも、75年前の日本も、志願兵として十代の若者がいたことを思うと、それに近いものはあったといえます。みなさんと年の近い若者です。

教育は大切なものです。けど、その中身によっては本当に恐ろしいものです。戦時中の日本も、軍国教育といって、戦争を美化し、讃えるような教育を学校で普通に行っていました。だから、「お国のためなら」と、すすんで戦争に志願する子どもが出てきたわけです。でも、いざ自分の命と引き換えになることがひたひたと分かってくると、どうしようもない深い悲しみに襲われていったようです。そんな記録が、鹿児島にある知覧(ちらん)特攻平和会館にいくつも展示されています。かつて、特別攻撃隊の基地があった場所です。その地から、何機もの特攻機が飛び立ち、そのほとんどが帰ることなく、海の藻くずとなって消えていきました。ここも是非、みなさんに訪れてほしい場所です。

今のみなさんとはかけ離れた世界にいた若者が、当時は当たり前になりました。でも当時の若者も、遊びたい気持ちがあり、親にあまえない気持ちもあり、人を好きになる気持ちもあったはずで、私たちと何ら変わりのない若者だったはずで、それを、「あの時代に生まれなくてよかった」と切り捨て、ヒトゴトで終わらせることに、どうしても抵抗があります。

みなさんは、どう受け止めるでしょうか。

